

祛瘀解毒湯による子宮内膜症治療 32 例

雒挺托 趙娟 陝西省礼泉県中医院（礼泉 〒713200）

一. 概要

目的：祛瘀解毒類漢方で子宮内膜症の治療効果を検証。

方法：32 名が祛瘀解毒湯を服用、生理 1 周期以上での効果の統計を行い、1 コース 3 か月で、2～3 コースを観察。

結果：生理痛の改善と骨盤内の病巣の縮小において治療前後に顕著な差がある。

結論：祛瘀解毒湯は子宮内膜症の生理痛と骨盤内の病巣の改善に良い効果を得た。

二. 臨床データ

本院患者 32 名、年齢 26-41 歳、既婚 28 名、分娩歴や人工中絶等 23 名（71.88%）、全患者はホルモン治療歴、或いは手術歴がある。

今回の治療を受ける前には、ホルモン剤は既に止めている、手術後 3 か月以上経っている、または漢方を止めてから 1 か月以上経過していた。

三. 治療方法

期間	処方	内容
生理 5 日前～生理 5 日目 (生理前後)	祛瘀湯	桃仁、紅花、川芎各 9g、白芍 15g、蒲黄、五靈脂各 12g、黄耆 30g、呉茱萸、血竭、乳香、香附子、没薬、炙甘草各 6g。
生理 6 日目～生理 6 日前 (その他の日)	祛瘀解毒湯	川芎 9g、黄耆 30g、血竭、乳香、香附子、没薬、炙甘草各 6g、紅藤、白花蛇舌草、薏苡仁各 30g、敗醬草 15g、桂枝 9g。

1 コースは 3 か月で、2～3 コース服用して観察。

生薬	働き	
血竭	活血化瘀、止血補血。李時珍：活血の聖薬。	この 5 つ生薬は共に行気活血、化瘀止痛。それ以外の活血薬が及ばない効果がある。
乳香、没薬	散瘀止痛、消腫生肌。諸経絡の痛みを消す。	
川芎	行気活血、血中の気薬。	
香附子	疏肝理血、気中の血薬。	
紅藤	活血止痛、散瘀消腫。	この 4 つ生薬は共に清熱解毒利湿、消腫散結止痛。
薏苡仁	利水除湿、舒筋緩急止痺、消癰腫。	
敗醬草	清熱解毒。	

白花蛇舌草	清熱利湿、解毒消腫。	
黄耆	益気補中。気は血を推動する「氣為血帥」。	
桂枝	性温助陽。陽気は陰血を滞らない。	
甘草	補中益気、清熱解毒、緩急止痛、調和薬性。	

四. 結果：総有効率 84.38%

効果	症状	骨盤内の病巣	人数	パーセント
顕効	基本的消失	縮小	8名	総有効率 84.38%
有効	減少	増大なし or やや縮小	19名	
無効	変化なし or 悪化	悪化傾向	5名	無効率 15.62%

五. 討論

張曉峰主任医師は子宮内膜症の病理特徴としては、瘀・濁・湿・毒がお互い絡んでいるとのことで、病位は絡にあり、伏せる毒が時間により再発することが発病特徴である。臨床表現は主に瘀血症状であり、瘀血の形成は陽、気と関係深く、瘀血の病理産物は更に湿濁の産生を引き起こし、それで張曉峰先生は祛瘀解毒消癥湯の元に加減して臨床に活かす。

生理期には、子宮は主に瀉法・活血の治療方針で、元の活血化瘀の基礎に、更に活血の力を強化するため、桃仁、紅花、白芍、蒲黄、五霊脂を加え、平性涼性の紅藤、白花蛇舌草、薏苡仁、敗醬草を除く。

祛瘀解毒湯は生理周期に基づいて運用する処方であり、特に生理痛と骨盤内の病巣の改善に顕著な効果が得た。